

2022 年度第 1 四半期決算説明会 主な質疑応答

1. リージョナルジェット機の運航伸び悩みによる業績への影響について

- ・ 1Qにおいては、航空業界での人手不足の影響により、特にリージョナルジェット機で運航が伸び悩んだ。
- ・ これに加えて、エアラインはエンジン部品の交換が少なくすむ機体を優先して運航していると分析しており、リージョナル機向けエンジンの、スペアパーツの売上は想定を下回り、営業利益を下押した。
- ・ 航空業界における人手不足の状況は、引き続き注視していくが、旅客需要の力強い回復を背景に、民間エンジン事業全体のスペアパーツ売上は、今後も堅調に回復していくと見ている。

2. 航空・宇宙・防衛セグメントの営業利益見直しについて

- ・ 上述の影響による1Qの営業利益の減少を、年度内に解消することは困難と判断し、通期見直しに▲50億円を織り込んだ。
- ・ 一方、前提為替レートを円安側へ見直したことによる、+150億円の増益を織り込み、上記と合わせて、通期の営業利益見直しを+100億円修正した。
- ・ コスト構造強化・採算性改善については、1Qにおいて既に効果が数字に表れている。まだ十分ではないが、着実に改善を進め、下期に向けて刈り取りを大きくしていきたい。

3. 中国ロックダウンの車両過給機事業への影響について

- ・ 車両過給機の販売台数は、中国ロックダウンの影響を受け、4,5月はかなり低い水準となったものの、6月においては大きく回復しており、現時点では、通期の販売台数見直しは変更していない。

4. サプライチェーン混乱、資機材価格高騰の影響をどう見ているか。

- ・ サプライチェーン混乱については、自動車減産によって車両過給機の販売に影響を与えている他、産業システム・汎用機械事業領域の一部製品が、半導体納期長期化の影響等を受けている。
- ・ 航空エンジン事業においても、レアメタル価格高騰の影響を受ける可能性があるが、現時点では顕在化していない。

5. 前提為替レートを円安側に見直したことによる、売上収益・利益額への影響は？

- ・ 民間エンジン事業は輸出型のビジネスであるため、売上収益・営業利益の双方でプラス方向に影響する。
- ・ 一方、他の事業領域においては、主に海外子会社で為替による影響が出ているが、売上収益は増益となるものの費用側にも円安によるコスト増加の影響が及ぶため、結果として利益への影響はそれほど大きくない。
- ・ また、営業利益以下においては、金融損益において為替差損益の額を見直した。

以上